

授業事例



内で地震が起きた時、どのように行動をとればよいかチャート図に表そう



2019年12月23日（月）川和東小学校

学年	1年生
教科	総合
教材タイプ	アンプラグド
使用教材	防災カード
学校活動の分類	B

※川和東小学校様より情報提供、画像掲載許可をいただいております。

授業の流れ

【教科観点より】

地震発生直後、自分のみを守るために、どのように行動すればよいか場所ごとに考えることができる。

【プログラミング観点より】

地震から身を守るためのアルゴリズムをフローチャートで表す（順序立てて並べる）ことができる。

	○学習内容	◆発問◇想定される反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震の際には、頭を守ることが大切」という学習を思い起させる。 ・東北地震の話をする。児童が生まれる前年に起きた。これから身近に起きる可能性のあることを話す。 ・本時のめあてを短冊で貼る。 「地震が起こった時は、どうすればよいのか考え、順番にカードを並べよう。」 ・『教室で起きた時』についてカードを使って全体で考える。 	<p style="color: red;">災害と聞いてイメージした事</p> <p>火事、地震、台風、つなみ、土社崩れ、</p> <p style="color: red;">災害がどこでおきたら大変</p> <p>トイレなど</p>
展開	<p>○ホーム活動【自分で考えるタイム】</p> <p>「自分の場所について、地震が起こった時は、どのように行動すればよいかのかを考えカードを並べよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜその順番にしたのか、使わなかった理由など説明ができるとよりよいことを伝える。 <p>○エキスパート活動【深めるタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起こった時のカードを、隣の友達に説明することを伝える。 <p>○ジグソー活動【発表タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起こった時のカードを、みんなに説明し、話し合いをする。 	
まとめ	<p style="color: red;">今回で学んだこと（発表タイム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おかし」おさない、かけられない、しゃべらないの 3 原則にプラスして、実際の行動パターンを学ぶ (教室、教室以外での行動は違う) 	<p>◆「どの場所、場面でも大切なことって何だろう？」</p>

【本時の展開】

● 導入



1. 前時の学習を振り返りながら、「地震の際に大切なこと」を考える。
2. 授業者により子ども達へ「地震の際には、頭を守ることが大切」ということを思い出させる。

黒板に提示した授業テーマ「じしんがおこったとき、どうすればよいかかんがえ、じゅんばんにかあどをならべよう。」の具体的な説明に入る。

● 展開



1. 自分で考えるタイム
子ども達各自の封筒に入っている内容の場所（場面）毎に地震が起きた時の順番を考える。
2. プログラミング観点から「開始」を地震発生、「終了」を避難完了とし個別学習として順番に並べる。

ただ並べるのではなく、「なぜその順番にしたのか」また「使わなかったカードの理由」などを考えながら個別学習の時間をとる。

3. 深めるタイム

子ども同士が良いなと思う意見があれば、「自分の順番を変えても良い」というルールのもと、同じ場所（場面）の子ども同士の班で話し合い、再度子ども達に考える時間を設ける。



● まとめ



1. クラス発表タイム (全体共有)

友達に意見を取り入れ確定した意見を限られた時間でできるだけ多くの発表をさせる。

インタビュー（先生の声）

コメント.....